

自ら学び 自ら鍛える

Team 北中

令和6年度 学校報 第7号 令和6年10月 1日

発行責任者：瑞浪北中学校校長 岩島 哲也

担当者：瑞浪北中学校教頭 後藤 正英

<キーワード> 『たくましさ』を示す北中生

北中 CS (コミュニティ・スクール) 発足2年目

大きく、力強い歩みを刻んでいます！

瑞浪北中学校CS通信『5地区全てがわがふるさと』(第一号 8月29日発行版)はご覧になられたでしょうか？CS発足からこれまでの経緯とともに、今年度の取組を紹介しました。

今回は、それ以降の取組の中から更に歩みが進んでいること、更なる広がり期待できることを紹介します。

そのきっかけとなる、大きな足跡を残した取組が、山田 幸男 学校運営協議会 会長の発案によって行われた『CS学習会』でした。多治見中学校 長瀬 教行校長を講師としてお招きし、「CSとは何か?」「CSと地域学校協働活動の違いは何?」といった、素朴でありながら、核心を突く疑問について学ぶ機会、その後、学校運営協議会委員、教員、地域の役職者の方が、それぞれ分かれた小グループによる意見交流を行いました。講話では、様々な実践についての取組方法や内容、そして成果に至るまでの具体的な話を通して、CSや地域学校協働活動そのものについての理解を深めることができました。

また、意見交流では日頃、なかなか話すことのない教員、学校運営協議会委員、地域の役職者が顔を突き合わせて、それぞれの立場から今思っていること、今後期待すること等、率直な意見を述べることができました。

その中の意見の1つが、実現に向けて動き出しています。学校からの困りごととして提案した、授業の中でのサポーターの依頼です。特に家庭科の調理実習、被服実習時には、なかなか一人の教員がタイムリーに助言、サポートすることができない状況があります。そこで、生徒たちの様子を見ながら、わからない時、危険な時などの助言やサポートをお願いしたのです。

学校からの依頼を受けて、会長が中心となり、保護者・地域の方への協力依頼文書作成、学校運営協議会委員・各施設への取りまとめ依頼にも回られました。

こうしたそれぞれの立場からの働きかけによって、9月30日現在、5地区全てから**延べ51名もの参加希望者**が集まっています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。参加依頼から声掛け、取りまとめをしてくださった皆様、参加を希望してくださった皆様、誠に有難うございました。

2つ目、更なる広がりへの期待は、地域の方による生徒への啓発です。

これまで各地区からボランティア依頼がある際は、代表者の方が来校され、説明とともに依頼文書・ボランティア希望届を渡される、というパターンがほとんどでした。この後、主幹が中心となり、ボランティア募集用紙を生徒に配付するとともに、全てのボランティアについて、全校放送やその地区出身の生徒を集めて啓発を行っています。しかし、クラブや自己都合により、ボランティア参加希望者にバラつきが出て、地区の希望人数を下回ることも多々あります。こうした際には、再度、啓発を行っています。その上でも希望人数を満たない際には、責任を感じ、申し訳なく思うわけですが、

そこで、学校運営協議会や地域の会議の中で、「地域行事担当の方が、生徒たちに直接投げかけてくださったらとても有難いです。また、行事終了後、生徒たちの活躍について伝えて頂けたら、生徒たちの地域に対する想いの高まりにもつながりますので、学校にお越しく下さい。」という話をしました。今年度、明世地区のこいのぼり祭りの前に、まちづくり推進協議会の柴田 阿姫 会長が、釜戸町文化祭の前には、釜戸公民館の湯原 定雄 館長が給食時間に全校放送で話してくださいました。こうした直接的な投げかけは、地域の方だからこそ話せることもあるはずですが、本当に助かります。これからも学校に足をお運びください。

